

「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（合気道・柔道）の実践

長崎県長崎市立小ヶ倉中学校
校長 田川信一郎
教諭 濱口 裕樹

本校は、一昨年に創立30周年を迎え、現在、第1学年65名、第2学年55名、第3学年59名の計179名が在籍する。長崎市では中規模校である。また、長崎市南部の長崎港を見下ろす丘の上であり、環境もいい。しかしながら、武道場が整備されておらず、武道授業で柔道を選択した場合、授業のたびに体育館に畳を準備するなど時間を要する。加えて、安全面にも配慮しなければならぬ。

こうした中、本校は令和元年度からの3年間、武道推進モデル校の指定を受けた。新たに実施した合気道では、近隣の合気会公認道場「悠歩塾」代表・磯部三男氏を外部指導者として招き授業を実施した。今回は令和元年度と2年度に行った合気道、柔道授業の取り組みを紹介する。



本校の校舎正面

1 合気道・柔道の指導計画と実践

(1) 第3学年での学習

令和元年度、全12時間の武道授業を計画し、4時間の合気道と8時間の柔道に取り組んだ。1～8時間目の柔道では、「1・2年次

の復習（礼法・受身・固め技・投げ技）」「基本となる技で投げたり、受けたりする」「試合形式で技を掛け合う」学習を実施した。

9～12時間目の合気道では、9時間目にオリエンテーションとして合気道の歴史・特性について学んだ。また、これからのグローバル化社会で生きていく上で、武道についての知識は、外国人とのコミュニケーションなどで役に立つことも学んだ。10～12時間目は、「基本動作（礼法・構え・体さばき・後ろ受身）」と「逆半身片手取り第一角落とし」「逆半身片手取り第一教（表・裏）」「突きの小手返し」の対人技能を学んだ。

(2) 第1学年での学習

令和2年度、1年生には、全12時間の授業を計画し、合気道と柔

道に取り組んだ。コロナ禍での実施となり、感染対策を講じての授業となった。

1時間目はオリエンテーションとして、日本武道協議会設立40周年記念『中学校武道必修化指導書』を活用し、柔道と合気道の歴史・特性・礼法などについて学んだ。2時間目は、本校には武道場がないため体育館に畳を敷いて道場を作る学習と道着の着用について学んだ。3～5時間目は柔道の学習で、準備運動として、相手の動きに応じたすり足、歩み足および継ぎ足で移動する対人の学習、「座位からの受身」「基本となる技（固め技）」を学んだ。6～10時間目は合気道の学習で、外部指導者の磯部氏に指導をしていただいた

た。6時間目は「オリエンテーション」「準備運動（合気体操）」「基本動作（構え・体さばき・後ろ受身）」と「逆半身片手取り角落とし」「逆半身片手取り第一教（表技）」の対人技能を学んだ。7・8時間目は前回の復習と「逆半身片手取り第一教（裏技）」「突きの小手返し」の対人技能を学んだ。9時間目は演武会に向けて技の復習を行い、グループ内で互いの演武を見せ合う学習を行った。10時間目は演武会を行い、グループ内で互いに評価し合った。11・12時間目は柔道の学習を行い、「固め技の試合」「基本となる技（投げ技）」を学んだ。3年目の令和3年度は、進級した2年生で両種目を実施する。

2 授業後のアンケート結果

武道の授業後に、興味・関心などについて、生徒にアンケートを実施した（令和元年度は3年生73名、2年度は1年生52名）。結果



外部指導者・磯部氏の協力のもと授業は行われた



角落し (3学年)



小手返し (3学年)

3 考察

(1)アンケートから
アンケート前は武道に対する興味・関心が低い生徒が多いと予想していたが、実際には興味・関心がある生徒が多いことが分かった。

武道が「嫌い」と回答した生徒の大半は、他の武道種目をやってみたいと思わないと回答している。しかし武道が「嫌い」という生徒でも、「やってみみたい」と思っ

た種目」で、一番多かった弓道などを体験すれば、「好き」になるかもしれない。今回、複数種目を学習したことで、生徒の武道に対する興味・関心を高めたと考えられる。

(2)教科担任の感想と授業の様子から
磯部氏に外部指導者として来ていただき、武道の学習をより専門的な視点から指導できた。また、

4 今後の課題と展開

令和3年度も引き続き「武道推進モデル校」の指定を受けている

ため、合気道と柔道の複数種目で武道の学習を実施する。令和3年

実際に合気道をしている方の技や礼法を間近で見ることができ、生徒の関心が高まった。本校は、部活動で武道種目はなく、武道を見たり、体験したりする機会はほとんどない。アンケート結果からも分かるように、武道について興味・関心がある生徒が多く、合気道の技を学ぶときも、目を輝かせながら聞いていた。技の手本を披露する際、磯部氏が体育教師に一時で技をかけ、簡単に倒す姿を見て、驚く生徒の姿が見られた。実際に技をかけ合う学習をすると、力が入り上手いかない生徒が多く、長年修練してきた指導者の実力を体感することができ、技の奥深さを知ることができた。練習を重ねると生徒はコツを掴み、一連

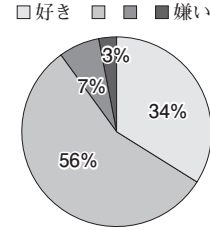
の動作で技をかけ、相手を倒せるようにまでになり、達成感も味わうことができた。

第1学年は5時間という短い時間ではあったが、三つの技を学習し、技の難易度も適切であった。互いに教え合ったり、質問に来たりする生徒の姿をたくさん見ることができた。学習のまとめでは合気道には試合がないことを学び、演武会を行った。演武会では、左右両方の構えから技をかけ、互いに見せ合い、真剣な雰囲気を取り組むことができた。武道の学習を通して、学んだ礼法や相手を思いやる態度、そして、世界に誇れる日本の武道の素晴らしさを今後の生活につなげてほしい。

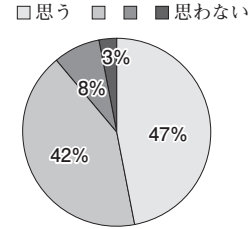
授業後アンケート結果

【令和元年度】(対象 3年生 73名)

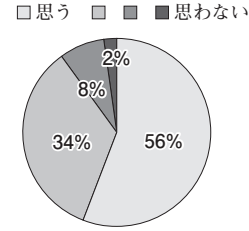
①武道の授業は好きですか。



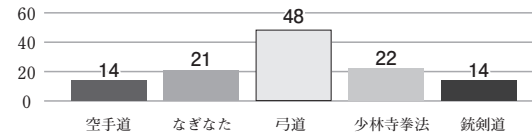
②合気道をまたやってみたいと思いましたか。



③他の武道種目もやってみたいと思いますか。



④他にやってみたい種目は何ですか。(複数回答)



①「武道の授業は好きですか」
令和元年度・2年度ともに、9割近くの生徒が肯定的であることが分かった。

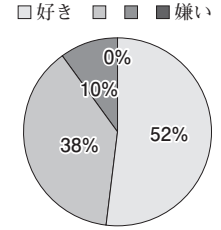
②「合気道をまたやってみたいと思いますか」
令和元年度・2年度ともに、9割近くの生徒が肯定的に回答した。

③「他の武道種目もやってみたいと思いますか」
令和元年度・2年度ともに、9割近くの生徒が肯定的であることが分かった。

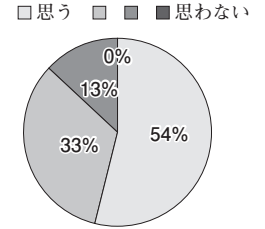
④「他にやってみたい種目は何ですか」(複数回答可)
令和元年度Ⅱ空手道14人、なぎなた21人、弓道48人、少林寺拳法22人、銃剣道14人
令和2年度Ⅱ空手道17人、なぎなた12人、弓道28人、少林寺拳法17人、銃剣道15人

【令和2年度】(対象 1年生 52名)

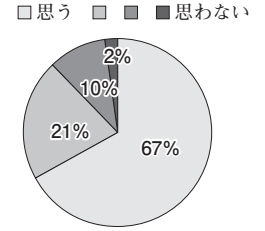
①武道の授業は好きですか。



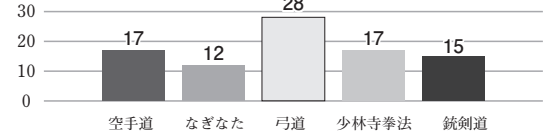
②合気道をまたやってみたいと思いましたか。



③他の武道種目もやってみたいと思いますか。



④やってみたい種目は何ですか。(複数回答)



①「武道の授業は好きですか」
令和元年度・2年度ともに、9割の生徒が肯定的に回答した。

②「合気道をまたやってみたいと思いますか」
令和元年度・2年度ともに、9割近くの生徒が肯定的に回答した。

③「他の武道種目もやってみたいと思いますか」
令和元年度・2年度ともに、9割近くの生徒が肯定的に回答した。

は次のとおりである。(上記グラフ参照)

令和2年度 指導計画「柔道・合気道」(第1学年)

種目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学習の流れ	柔道			合気道						柔道		
	導入(あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し)											
	準備運動											
	オリエンテーション	道場設営・道着着用	基本動作			オリエンテーション	基本動作					
			受け身			受け身						
	固め技			基本動作	対人技能	復習			固め技			
	固め技試合			受け身	①角落とし			演武会	投げ技段階的に			
				対人技能	②逆半身片手取り							
				③突きからの小手返し			演武練習					
	まとめ(整理運動、振り返り、あいさつ)											

指導と評価の計画(令和2年度、第1学年) 5時間コース(各クラス別授業)

学習のねらい	第1日	第2日	第3日	第4日	第5日
	合気道への理解を深め、各基本動作・逆半身片手取り・逆半身片手取り第1教(表技)を覚える。	基本動作、逆半身片手取り第1教(表技)の復習と逆半身片手取り第1教(裏技)を覚える。	基本動作、逆半身片手取り第1教(表技及び裏技)の復習と突きからの小手返しを覚える。	基本動作、逆半身片手取りの復習(4日間の全ての技を反復練習し覚える)。	基本動作、突きからの小手返しの復習と他人の演武を見て自身の技と比較・見直しをする。
はじめ	集合・挨拶・目標確認				
展開	1) オリエンテーション ・授業の流れ、約束事の説明 ・合気道の歴史・特性について 2) 基本動作 ・礼法、・構え ・体さばき 上記1.2.項併せて(10分) 3) 後ろ受け身(5分) 4) ①逆半身片手取り 角落とし(10分) ②逆半身片手取り第1教(表技)(10分) 5) 質疑応答(5分)	1) 基本動作(5分) ・構え ・体さばき 2) 後ろ受け身(5分) 3) ①1日目の復習(15分) ・逆半身片手取り 角落とし ・逆半身片手取り第1教(表技) ②逆半身片手取り第1教(裏技)(10分) 4) 質疑応答(5分)	1) 基本動作(5分) ・構え ・体さばき 2) 後ろ受け身(5分) 3) ①1・2日目の復習(15分) ・逆半身片手取り 角落とし ・逆半身片手取り第1教(表・裏) ②突きからの小手返し(10分) 4) 質疑応答(5分)	1) 基本動作(10分) ・構え ・体さばき 2) 後ろ受け身(5分) 3) 突きからの小手返し(10分) 4) 演武練習(10分) 5) 質疑応答(5分)	1) 基本動作(10分) ・構え ・体さばき 2) 後ろ受け身(5分) 3) 演武会(2人1組で4組または5組が同時に演武し、3回転合計27、28名で、演武時間一組3~4分、合計約15分) 4) 感想・反省・質疑応答等(10分)
学習の流れ(「技稽古は2人1組になり左右方向から掛かり合い、互いに投げ(取り)と受けを交替しながら繰り返し行う」)	本時のまとめ、学習ノートの記入、片付け、終了の挨拶				

令和元年度 指導計画「柔道・合気道」(第3学年)

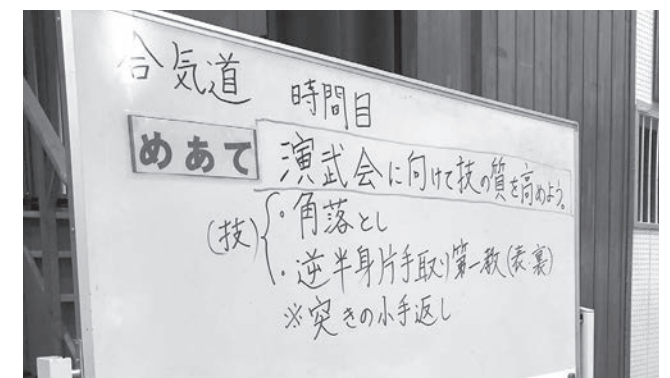
種目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学習の流れ	柔道			合気道						合気道		
	導入(あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し)											
	準備運動											
	オリエンテーション	基本動作			オリエンテーション	基本動作						
		受け身			受け身							
	固め技・固め技試合			基本動作	対人技能	復習			固め技			
	かかり練習			①角落とし			演武会	投げ技段階的に				
	約束練習			②逆半身片手取り								
				③突きからの小手返し			演武練習					
	まとめ(整理運動、振り返り、あいさつ)											

度から新学習指導要領が完全実施となり、武道の内容の取り扱いには、「学校や地域の実態に応じて、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などについても履修させることができる」として、柔道、剣道または相撲に加えて履修させることとし、学校や地域の特別な事情がある場合には、替えて履修させることができる」として「と明記されている。」

今後、複数種目で学習していく中で、本校の課題は「指導内容および指導方法を体系的に整備することができる体制の整備」などが上げられる。また、合気道と柔道を複数種目で実施する際に別々のものと捉えずに、共通する部分、違う部分を精査して指導のつながりを持てるように研究を続けていきたい。

今回、「武道推進モデル校」として、合気道の学習機会を与えていただいたことは、生徒にも大変

貴重な経験となった。地域の指導者の活用が全国各地で展開されるようになれば、専門性の高い指導で学習ができ、「確かな学力」「健康やかな体」「豊かな心」の育成につながるかと考える。また、地域と学校がつながりを持つことができ、開かれた学校の推進にもなる。それが、地域の活性化や生徒の安全な社会生活となることを期待したい。



時間ごとに「めあて」が示された(1学年)



後ろ受け身の全体練習(1学年)

私自身、学校体育以外で武道の経験はないが、合気道の指導者である磯部氏と出会えたことで、武道への関心や知識が高まった。武道への関心や知識が高まった。武道の学習を通して生徒の健全な育成、人間形成となるように、今後は現場で力を注ぎ、我が国固有の文化である武道の発展を願いたい。